

平成28年度

# いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第5日 11月5日(土)

## <講義>

### 学級で気になる子どもたちへの支援の実際

#### 講義資料



茨城県教育研修センター特別支援教育課  
指導主事 平田 勝

#### 【要旨】

- ・学級で気になる子どもたちの行動の背景を知る視点の一つとして、発達障害の理解は大切である。
- ・学級で気になる子どもたちには、その特性の理解をもとにした適切な関わりと、自己肯定感を高められるような指導・支援を心がけることが大切である。
- ・これからの学校においては、インクルーシブ教育システム、合理的配慮、障害者差別解消法の理解と対応が欠かせないものとなってくる。
- ・学級で気になる子どもたちの指導・支援については、担任が一人で抱え込むのではなく、そのための校内外の連携、ネットワークが大切である。

## <実践発表>

### 学級で気になる子どもたちへの支援の実際



坂東市立岩井第一小学校  
養護教諭 忍田 とし子

#### 【要旨】

- ・養護教諭として、子どもたちに向き合うことを最優先にしている。
- ・学級で気になる子どもたちには、先生がいつも自分のことを見てくれている、分かって認めてくれていると思わせること、そして、今日も学校に来てよかったと感じさせることが大切である。
- ・学級で気になる子どもたちの支援は、子どもの wants (要望・要求) ではなく、個人的要因・環境的要因から、一人一人の needs (援助の必要性) に応じて支援することにより、子どもの成長を促すことが大切である。

＜ワークショップ⑤＞  
学級で気になる子どもたちへの支援





## 塾生のアンケートより

- ・講義・実践発表では、実体験を基にした現場の様子を聞くことができた。子どもや保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけたいと思った。【若手教員】
- ・学級では、困難さを感じている子どもたちがいることが分かった。実際に困難さの疑似体験をすることで、できないことへの焦りやプレッシャーなどを体験し、環境づくりや教師の声かけの大切さを知ることができた。【学生】
- ・教師の言葉かけで、子どもの学習や集中を妨げてしまうことを感じた。子どもの発達段階や特性を把握し、ワークシートや板書の工夫をしていきたいと思った。【学生】
- ・ワークショップを通して、学習につまずいている子どもの気持ちや不安などが分かった。一人一人に応じた指導を考えることが大切だと思った。【学生】
- ・「見る、読む、書く」の模擬体験では、苦手な子どもの気持ちを理解できた。その困難さに気付くことができる教師になりたい。【若手教員】
- ・発達障害のある子どもの困難さを取り除くために、日々の授業における合理的配慮の重要性について学ぶことができた。【若手教員】